

土木学会名誉員推挙者報告

工学士 谷口三郎君



谷口三郎氏は明治42年、東京帝国大学工学部土木工学科を卒業後、ただちに内務省に入り、北海道庁、本省、大阪土木出張所に勤務されたのち、本省第一技術課長、東京土木出張所長、内務技監等の要職を歴任せられ、その間、淀川、利根川はもちろん、わが国すべての河川の治水計画に氏の構想の入らないものはないのであります。

また、昭和17年に退官されてからは鴨緑江、黄河等、外地河川の治水にも尽力せられ、終戦後、昭和23年まで山西省自然科学研究院顧問、汾河水利事業委員会総工程師として活躍せられ、帰還後は建設工事の機械化を提唱せられて、昭和26年に発足した日本建設機械化協会の初代会長として尽力せられたので、現在同協会の名誉会長であり、また各府県の顧問、建設省専門委員等として寧日なく活躍せられておられます。

土木学会にあつては、昭和5、6年常議員、昭和14年副会長引続き16年第29代会長として学会の運営に尽力せられたのみならず、特に若い技術者の指導訓育に意を注がれ、土木技術界の発展のために貢献されている効績は、まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学博士 島崎孝彦君



島崎孝彦氏は明治31年、現在の京都大学の前身である第三高等学校工学部土木工学科を卒業後、ただちに内務省に入り、約10年間、治水および上下水道関係に従事せられ、明治44年朝鮮総督府に転じ、その後、大正11年大阪市に入り、水道部下水課長、同水道部長を歴任、昭和15年退職せられるまで、上下水道の権威として活躍せられました。

その間、昭和4年欧米各国へ上下水道の研究に出張せられ、昭和12年に工学博士の学位を得られました。

土木学会にあつては、昭和8年から13年まで6年間の永きにわたり、関西支部商議員、幹事長、支部長として支部発展のため非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。